



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 158 July. 1. 2019

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



猿投山で熊目撃（定点観測カメラで撮影）

詳細はP21 トピックスコーナー参照

目次

○令和元年度支部通常総会	毛利邦男	2	○支部友会・朝明ミーティング開催	金谷正起	15
H30年度事業報告		3	○委員会報告 亀の会/自然保護		17
令和元年度事業計画		5	ボランティア/山行		
令和元年度役員		6	東海支部俳壇		19
令和元年度組織図		7			
			○東海支部の蔵書からの一冊②⑩	石田文男	20
○追悼 中世古直子さん	大口瑛司	8	○トピックスコーナー		21
	遠藤京子		○支部友コーナー		22
○支部創立60周年記念事業の概要		10	○同好会コーナー スケッチ/塩の道		23
○登山学校第Ⅲ期開校	榊 将美	12	○会務報告	毛利邦男	25
			○ルーム日誌・会員異動	毛利邦男	28
○第7回夏山フェスタ	毛利邦男	13	○INFORMATION		29
○観桜会	和田豊司	14	○編集後記	星 一男	

令和元年度支部通常総会

総務委員長 毛利邦男

令和元年度支部通常総会

5月19日(日)午後4時から、令和元年度東海支部通常総会がOMCビル講堂で開催された。冒頭、最近亡くなった中世古評議員への黙祷をささげた後、定足数の確認を受け、支部総会が始まった。高橋支部長の挨拶のあと規約により、高橋支部長に議長を委嘱し議事に入った。



高橋支部長挨拶

第一号議案として、平成30年度事業報告と決算報告が上程された。片岡副支部長の事業報告に関する説明および市川会計の決算報告に関する説明の後、和田監事より、会計監査報告がなされ、会計は適正に処理されていることが報告された。第二号議案は令和元年度の新体制について、役員案及び組織図案が提出された。役員変更については、中世古直子評議員と橋村一豊評議員の退任に伴い、小川務氏を新たに評議員に提案。また、令和元年度組織図案並びに常務委員の一部交代案が示され、いずれも原案通り承認された。

つづいて令和元年度事業計画案及び予算案が上程された。山田副支部長による事業計画案の説明があり、再来年には支部創立60周年にあたるため、記念行事実行委員会を立ち上げたことなどを提案した。続いて市川会計役による予算案についての説明がありこれからも原案通り承認された。

委員会・同好会の紹介

本年度の総会では、委員会・同好会の紹介を行った。

19の委員会並びに7つの同好会の代表者が歌の合唱や動画などの映像を交えて紹介の熱弁をふるい、総会は大いに盛り上がり、予定した時間を大幅に延長することとなった。会員諸氏が委員会・同好会活動に参加されるよう期待したい。



亀の会会員の替え歌合唱



青年部の紹介

懇親会

総会終了後、6時55分から支部ルームに場所を移し、懇親会議が開かれた。佐野副支部長の乾杯で始まった懇親会は大いに盛り上がり、



乾杯の冒頭（佐野副支部長）

最後は山田副支部長の中締めで閉会となった。

平成30年度事業報告

期 日	内 容	担 当
I 公益事業		
(1) 登山に関する文化・学術の振興事業		
毎月第3土曜日	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
毎月1回	わいがや講座・緑陰講座の実施-外部有識者および森づくりの会の会員を講師に招き、森林・水土保全・生物多様性などの環境機能に関する勉強会の実施	猿投の森づくりの会
12月	気象予報士小田切正氏による山の気象講座（気象遭難をなくすために）	技術向上委員会
2月	金田正樹氏「登山で起こる低体温症と凍傷」の講演会	技術向上委員会
3月	村越真氏「ナビゲーションと読図」の指導講演会。初日は3時間の座学、翌日は実際の山中での実技指導	技術向上委員会
(2) 児童・青少年の育成事業		
10月28日	知的障がい者支援登山、SON愛知と協働 寧比曾岳。参加者 障がい者7名、支援者28名	ボランティア委員会
6月14日～15日	試験観察中の少年 身柄付き補導委託登山「春のタンポポ登山」、鈴鹿・朝明周辺、参加者：少年 2 名 支援者 10 名	
11月1日～2日	試験観察中の少年身柄付き補導委託登山「秋のタンポポ登山」、鈴鹿・朝明周辺、参加者：少年 2 名 支援者 10 名	身柄付き補導委託登山「秋のタンポポ登山」
9月22・23日	御在所フェスティバル(ゴザフェス)、参加者25名	東海学生山岳連盟
10月と11月	親と子のふれあい登山教室（尾高山） 参加者は合計205名（内支部員31名が支援のため参加）	ボランティア委員会
	ひなご幼稚園「森の探検隊」-ネイチャービンゴ、クラフト体験、遊歩道から紅葉した林内の探検。参加者：園児78名、他に保護者・スタッフ17名	猿投の森づくりの会
(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓発事業		
4月～9月	登山教室前期開講（中日文化センター登山教室）	登山教室委員会
6月23日～24日	夏山フェスタへの協力	夏山フェスタ実行委員会
7月～	登山学校開校 一未組織登山者への安全登山の啓発と支部の人材確保と育成。 経験及び技量に合わせ初級・中級・上級の3つのグループに分け1年間の学習・訓練を实践。受講生：初級：27名、中級：32名、上級：12名、指導員：31名	
10月～3月	登山教室後期開講（中日文化センター）	登山教室委員会
(4) 事故防止事業		
6月～11月	指導者研修	遭難対策委員会 技術向上委員会
4月～3月	読図山行	図書委員会
随時	チェンソー慣熟訓練・安全教育	猿投の森づくりの会
通年	携帯電話とメールによる登山届の提出促進	遭難対策委員会

(5) 山岳環境保全事業

通年	猿投の森、山桜フィールド及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
毎月2回	定例作業	猿投の森づくりの会
7月8日・9日	自然保護全国大会 石川県能美市にて開催 1名参加	自然保護委員会
6月7日	清掃登山、猿投山 (HAT-Jと協働)	自然保護委員会

毎月1回	自然観察会の実施	猿投の森づくりの会
7月～10月	両棲類および哺乳動物の生態調査	自然保護委員会

(6) その他目的を達成するための事業

5月12日	春のブラインド登山(視覚障がい者支援登山) 一網掛山 参加者 34名(内支援者24名-東海支部他)	ボランティア委員会
2回開催	他 参加者累計 27名(うち支援者20名)	ボランティア委員会
10月27日	森の音楽祭:参加者 合計500名(内支部員スタッフ90名)	森の音楽祭実行委員会
11月3日	秋のブラインド登山(視覚障がい者支援登山) 一近江・小谷山 参加者 28名(内支援者18名-東海支部員他)	ボランティア委員会

II 共益事業

8月	インドヒマラヤ未踏峰(タシ・ラン峰)登頂	星隊長他4名
通年	支部山行(計画55回、実施37回)、参加人員延304名	山行委員会
通年	支部友山行(計画43、実施36回) 参加 延220名	支部友委員会
随時	支部友ミーティング(計画6回、実施6回)	支部友委員会
通年	定例山行(計画11回、実施5回、参加延138名)と自主山行(4回実施、参加71名)	亀の会
随時	合宿・訓練・講習;春山合宿 5月、地図読講習 6月、小川山合宿 8月、雪上訓練 11月、冬山合宿 1月にそれぞれ実施、個人山行:随時(年間100隊)	青年部
通年	原則40歳以下の男女登山教室卒業生で向上心のある登山初心者29名が支部員指導のもとに毎月1~2回の定例山行に加え40回の個人山行を実施。在籍期間は2年	東海ユース
随時	趣味を同じくする同行の志が集まり7つの同好会が活動中-スケッチクラブ、東海アルパインスキークラブ、古道塩の道、読図会、TNCC、ネパール文化研究会、山の自然学研究会	同好会
随時	写真展委員会が主催する撮影山行の実施	写真展委員会
1月19日(土)	支部新年懇親会(今池ガスビル「ガス燈」)	総務委員会

その他

支部報	年4回発行 No.153(4月) No.154(7月) No.155(10月) No.156(1月)	支部ガイド 7月
常務委員会	毎月第4水曜日	支部長・副支部長会議 毎月第3水曜日
通年	ホームページを利用した情報発信	
通年	メルマガ「東海支部ガイド」配信	

東海支部令和元年度事業計画

期	日	内	容	担	当
1. 公益目的事業					
(1) 登山に関する文化・学術の振興事業					
毎月1回		猿投の森	自然観察会	猿投の森づくりの会	
7月～9月		森の研修会	(緑陰講座)	猿投の森づくりの会	
毎月1回		わいがや講座		猿投の森づくりの会	
随時		森の工作	(間伐材加工等)	猿投の森づくりの会	
通年		森の調査	(植生調査、ギフチョウ・など)	猿投の森づくりの会	
11月		森づくり体験	(法人デー、NICE 協働作業)	猿投の森づくりの会	
3月17～22日		第17回東海岳人写真展		写真展委員会	
(2) 児童・青少年の育成事業					
春・秋の2回		身柄付補導登山		ボランティア委員会	
9月		御在所フェスティバル		東海学生山岳連盟	
4月21日		知的障がい者支援登山	(SON・愛知支援登山)	ボランティア委員会	
10月下旬・11月初旬		親と子のふれあい登山教室	2回(尾高山)	ボランティア委員会	
11月		森の探検隊	(幼稚園児森林体験)	猿投の森	猿投の森づくりの会
(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業					
6月8日・9日		夏山フェスタ	への協力	夏山フェスタ実行委員会	
7月		登山学校	第3期開校	登山学校運営委員会	
8月11日他		「山の日」	啓発活動	「山の日」事業委員会	
(4) 事故防止事業					
随時		指導者養成訓練		技術向上委員会	
随時		事故防止講座	の開催	技術向上委員会	
秋		チェンソー慣熟訓練		猿投の森づくりの会	
随時		遭難予防講習会	山岳救助訓練などの開催補助	遭難対策委員会・山行委員会・青年部	
(5) 山岳環境保全事業					
通年		猿投の森及び東大演習林における森づくり	(雑木林整備・人工林整備・植生など整備) +民有林整備	猿投の森づくりの会	
通年		JAC 山桜フィールド整備	(炭焼き体験、ウッドデッキ作成、シイタケ栽培等)	猿投の森づくりの会	
通年		植生等保護作業	(調査・マーク・保護処置作業等)	猿投の森づくりの会	
通年		林道整備	(沿道草刈・路面整備・枯死木処理など)	猿投の森づくりの会	
7月		HAT-J	との清掃登山、猿投山	自然保護委員会	
通年		モニタリング	1000里地調査(哺乳類調査・カエル類調査・カヤネズミ調査)	自然保護委員会	

(6)その他目的を達成するための事業

5月11日	春のブラインド登山(視覚障がい者支援登山) , 白猪山	ボランティア委員会
10月26日	森の音楽祭 と自然観察会他	森の音楽祭実行委員会
11月初旬	秋のブラインド登山(視覚障がい者支援登山)	ボランティア委員会
年3～4回	視覚障がい者支援登山②(ひまわり山行)	ボランティア委員会

2. 共益事業

随時	自主山行	青年部
5月	春山合宿	青年部
7月	小川山合宿	青年部
2月	冬山合宿	青年部
5月19日	支部通常総会	総務委員会
年6回(隔月)	支部友ミーティング	支部友会
毎月3～5回	支部友山行	支部友会
年間55回程度	支部定例山行	山行委員会
毎月1回	亀の会定例山行	亀の会
随時	自主山行(日帰り+宿泊山行)	亀の会
毎月2回	東海 Youth 定例山行	東海 Youth
随時	東海 Youth 個人山行(年間60～70回)	東海 Youth
随時	写真撮影山行	写真展実行委員会
1月(開催日未定)	支部新年懇親会(場所未定)	総務委員会

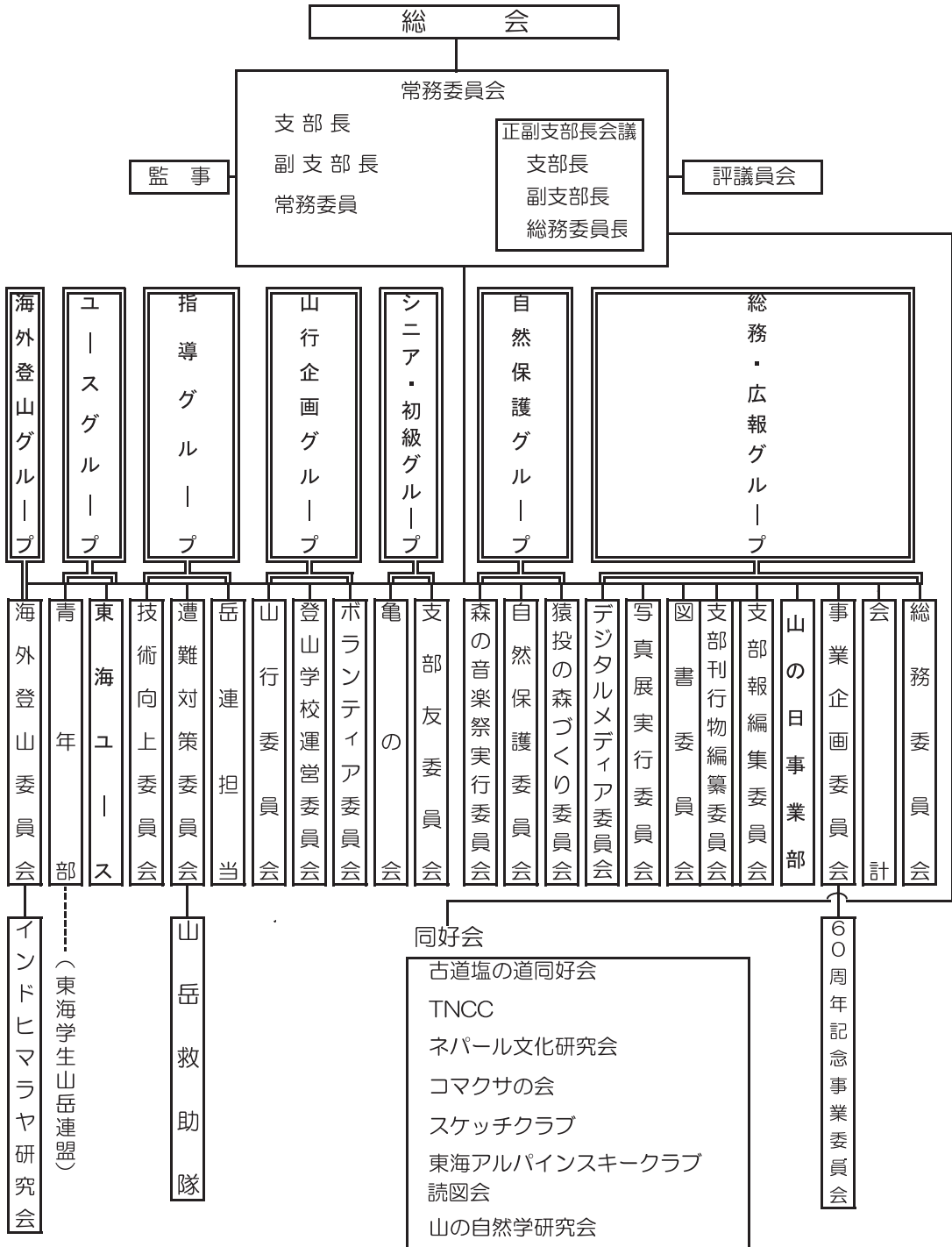
令和元年度 役員

名誉支部員	石原國利				
支部長	高橋玲司				
副支部長	片岡泰彦	佐野忠則	山田明美		
監事	天野倅明	和田豊司			
常任評議員	尾上 昇				
評議員	大口瑛司	小川 務	沖 允人	梶田民雄	柴田清康
	杉田 博	野呂邦彦	箕浦靖夫	横田明信	

常務委員会	委員長	常務委員会	委員長
総務委員会	毛利邦男	登山学校運営委員会	榊 将美
会計	市川義行	登山学校	高橋玲司(校長)
岳連担当	鎌倉源助	自然保護委員会	井藤恵美子
支部友委員会	尾上 昇	図書委員会	石田文男
山行委員会	鈴木慎吾	海外登山委員会	高橋玲司
亀の会	加藤守彦	ボランティア委員会	前田隆久
猿投の森づくりの会	和田豊司(代表)	支部刊行物編纂委員会	星 一男
東海ユース	服田康弘	遭難対策委員会	山田明美
事業企画委員会	毛利邦男	技術向上委員会	片岡泰彦
「山の日」事業本部	佐野忠則(本部長)	写真展実行委員会	山内 薫
60周年記念行事実行委員会	尾上 昇	森の音楽祭実行委員会	毛利邦男
播隆祭小委員会	尾上 昇	デジタルメディア委員会	井上寛之
支部報編集委員会	星 一男	東海学生山岳連盟	喜田 陸
青年部	鎌倉源助		

注：下線付きは新任、その他は重任

公益社団法人日本山岳会東海支部
令和元年度組織図



・正副支部長会議はチャレンジ基金等の使途を含めた支部業務全般の調整を行う。

追 悼

「直ちゃん」追憶

大口 瑛司

「直ちゃんが亡くなった」と連絡を受けたのは中津川に向かう車中であつた。その前日には東海支部の評議員会で「直ちゃん最近どうしてる」と話題になつたばかりである。以前から色々な会合で、「直ちゃん最近どう」と誰かが口にしたが、余り知る人はいなかつた。

以前山行に同行した人は「たびたびザックをひっくり返して探し物する」と言っていた。認知症が始まっていたかもしれない。これが亡くなる事に繋がつたかどうかは解らない。

中世古直子さん、通称「直ちゃん」は昭和50年(1974年)日本女子マナスル登山隊に参加し、見事登頂に成功している。これは女性では世界初の8000m峰登頂者3人の内の一人としてNHKテレビでも紹介された。

また、それに先立つ4年前の昭和46年(1970年)には、日本山岳会東海支部のマカルー(8463m)登山隊にも参加している。昭和63年(1988年)にも同じく東海支部の中老年インドヒマラヤ登山隊に参加し未踏のヤン峰(6230m)の頂に立っている。

私の知る直ちゃんは、私と名古屋山岳会で共に過ごした10年間ほどを除いたら、東海支部の会合で言葉を交わす程度で、50年近く山もスキーもほとんど一緒に行つたことがない。彼女の動向は時折り耳にしていた程度である。むしろご主人の通称「セコさん」(故中世古隆司・南山大山岳部OB)と東海支部の会合や酒席での付き合いが長く、それで身近に感じていたかもしれない。

直ちゃんが名古屋山岳会に入会したのは会報によれば昭和33年とある。歩荷のトレーニングで木曾駒に行つた時はショートパンツで登って、白い素足がまぶしかった記憶がある。今なら珍しくも何でもないが当時としては「飛んでる子」の印象であつた。

帰りの列車の中では「山は根性で登るんだ」と、新人の女の子にしては物怖じせず大胆なことを言う子であつたが、その後のマナスルの例を見れば有言実行だつた。

セコさんと結婚した直ちゃんは、おとなし



く家庭に収まるような人ではなかつたようだ。その辺の気持ちを「岳人」に『山と私と彼と』と題して投稿している。「・・・家庭の主婦としては落第生であろう。悪いと思ひながら〃申し訳ないが、どうしても山へ行きたい〃の一点張りで逃げ出してしまふ・・・」と。

損害保険の仕事をしていた直ちゃんが、セコさんより経済力は上であつたことに加え、直ちゃんを見初めたセコさんが愛の告白をドンちゃん(故加藤幸彦氏 名古屋山岳会、東海支部員)に頼んだことも、請われて一緒になつたとの意識もあつたと思う。

そうした立場の違いで山へ出掛けるのは彼女の方が多くなるのは、自然の成り行きのように見える。だが実態は社交的で家庭よりも自由度を優先する彼女の性格によるところ方が大きかつたのではないか。

口の悪い連中は二人を「中世古夫妻でなく、中世古妻夫だ」と言つてからかつた。子供が出来て名古屋山岳会を退会してからは日本山岳会東海支部に軸足を置き、マカルー、マナスルを初め山もスキーもゴルフも活動は以前より広がつていったようだ。

直ちゃんの物怖じしない性格は英会話にも表れて、ドンちゃんは「英文科を出たヤツより直子の方が通じた」と話していた。自信が

ついたのかドンちゃんの所(カナダ在住時)には仲間を連れてたびたび出掛け、スキーの腕前(足)前を披露していた。また、勝手知ったニュージーランド(昭和41年名古屋山岳会のニュージーランド遠征隊に参加、日本人女性初のマウントクック登頂者)にも仲間を集めてはツアーに出掛けていたと聞いた。世話好きでもあり、交友関係もすこぶる広い。

興味の赴くまま、気の向くままに行動してみんなに親しまれた直ちゃん。その生き方を一言で言うならば、元気な「お嬢さん」ではなかったか。平成31年4月18日逝去。享年82歳。

中世古直子さんを偲ぶ

遠藤京子

平成が終わる4月18日に中世古直子さんが心筋梗塞で亡くなった。その知らせは45年前彼女と一緒にマナスルの頂きに立った女性隊の内田昌子と森美枝子から受けた。「あの元気印の直ちゃんがどうして」と信じられない思いで尾上昇元日本山岳会会長、元東海支部長に電話した。

山ではなく自宅のベッドの上で神に召されたことは、もう十分やりたいこといっぱいやったね。御苦労さまでした。と思うべきかいや、まだ81では早すぎる。直ちゃんなら90越えても登っている姿がお似合いだよ。

実は私も彼女より5ヶ月遅く生まれた81歳。私にも神様から肩叩きがあるかと気に掛けてきた。でも私にはちょっと待ってと言うわけがある。直ちゃんの夫君隆司さんは9年前に脳梗塞で亡くなっている。私の夫は脳梗塞から認知症が進んで病院と老健と自宅を移住中。だから彼より先には逝けない。直ちゃんと天国で再会したいけどもう少し待ってね。

名古屋の名門女子学院育ちの彼女が山登りを始めた動機は聞きもしたが、ひとりで登っていたらしい。「岳人」332号にある彼女の文によると、雪山への第一歩は11月の木曾駒へアイゼン無しのキャラバンシューズで踏み込む。幾度も転んだが、興奮と充実感を味わい、翌月名古屋山岳会に入会して本格的に冬山、氷雪、岩、沢などの経験を積み重ねていくことになった。当初は女子部の山行の雰囲気の魅力を感じて楽しかったが、4～5年

経ると女子の限界を知る。そんな時、会の中にニュージーランド登山計画が生まれた。男の中に女2人参加してトレーニングに励み、自信をつけて2年後に初めての海外遠征が実現した。標高こそ3000m前後と低いが氷雪をまとった美しくも険しい南半球のアルプスをめざして神戸港を出港した。28才すでに結婚して一児の母となっていた。4ヶ月間不在中の育児は御家族の協力があったのである。

その成果はマウントクック女性の初登頂。他に四座登頂。

この遠征から帰国直後の3月に長野県山岳協会主催の女子登山者講習会で彼女と私の初めての出会いがあった。女性の8000m峰登山実現への私の夢を語り半年後に京都で女子登山者の集いを約束して一歩進んだ。私は2年後思いがけずJAC東海支部マカルー登山隊へのお誘いを受けた。地元の彼女も当然「私も行きたい」と乗ってきた。一年間集いや準備に京都から通っている間、幾度か彼女の家に泊めてもらった。仕事と家庭と育児に多忙な生活を合理的な思考のもとに手際よく進める術に感心した。私は肝臓が悪くなって参加を辞め、代りに愛知学院大山岳部OBの芦谷洋子を隊員にと頼んだ。女性隊員2人は7000m迄体験した。

帰国後「4ヶ月も留守にして息子に悪いママだった。一緒に白馬に登るのでヘルプして」と芦谷が頼まれて同行した。子供への深い愛と登山への限らない情熱との葛藤をほとんど表に出さない芯の強い人ではあるがやはり母である。

目標の女性の8000m峰へ。マナスルJACルートが韓国隊の雪崩大遭難と再挑戦の為、未踏の東尾根に許可を得て、中世古偵察隊長他2名を派遣。取付から稜線下部を試登。翌年の本隊は韓国が諦めたのでJACルートにも許可を得て中世古登攀隊長は隊員の意見をまとめながらも東尾根へ。上部に可能性がないと判断してJACルートへ転進。3名の隊員とシェルパー1名登頂。世界の女性初の快挙を成し遂げ、私の夢を果してくれた。ありがとう。

(日本山岳会会報「山」より転載)

支部創立60周年記念事業の概要

——60山ラリー先行実施——

日本山岳会東海支部は、1961年4月23日 初代支部長 須賀太郎、副支部長 石岡繁雄 等を中心にして設立された。この東海支部が2021年に創立60周年の記念の年を迎える。

支部では、この創立60周年を記念した事業を、実行委員会を設けて検討を始めた。まだ2年先の事であるので、詳細は未定であるが、一部の事業は、達成までの期間を要することからすでにスタートしている。ここでは、この先行事業の内容の詳細と併せて事業全体の概要を報告するものである。

今回、支部創立60周年を迎え、記念事業を実施するにあたってコンセプトを次のように定めた。是非ご理解いただき、全支部員が何等かの形でこの記念事業に参加を希望するものである。特に実行委員会には、新しく支部に加わった方々に参画してもらい、次世代の東海支部を担う人材育成を図る場としたい。

(1) 新たな61年からの支部活動の益々の活性化と新規の事業展開への起爆剤としたい。

(2) 支部員全員が参加できる事業を計画する。

(3) 実行委員会への新しい会員の参画と人材の育成を図る場としたい。

1. 実行委員会の構成

委員長
尾上 昇
アドバイザー
高橋 玲司(支部長)
会計
市川 義行

副委員長 毛利 邦男 (総務委員長) 記念式典・懇親会・記念出版担当
総務委員会(全員)、支部報編集委員会(全員)、図書委員会(1)

副委員長 片岡 泰彦 (副支部長) 海外事業担当
東海ユース(1)、青年部(2)、東海学生山岳連盟(2)
登山学校運営委員会(3)、岳連担当(1)

副委員長 山田 明美 (副支部長) 国内事業担当
山行委員会(3)、登山学校運営委員会(3)、猿投の森づくりの会(2) 亀の会(1)、自然保護委員会(1)、支部友委員会(3)

副委員長 佐野 忠則 (副支部長) 全国支部懇談会主管担当
ボランティア委員会(3)、自然保護委員会(2)、総務委員会(2)、山行委員会(2)

◎委員会名は、各事業への所属を示し()は、委員会からの出向希望員数を示す。

2. 各事業の概要

(1) 記念式典及び懇談会

2021年5月21日(土) 場所未定(総会を兼ねる)。

(2) 記念出版

東海山岳12号(60周年記念号)、支部報合本版、その他。

(3) 海外事業

海外登山(2隊の派遣を計画中)と海外トレッキング(世界各地へのトレッキング)を実施。

(4) 国内事業

60山ラリー(実施中)、60山同日登山、御在所一斉登山、記念音楽祭(猿投)、委員会毎の記念事業 その他。

(5) 60周年記念全国支部懇談会の主管

2021年秋の実施を予定。

3. その他の関連事業

マカルー南東稜初登攀50周年記念行事

2020年5月23日(土) 総会を兼ねて実施(東海支部隊の初登攀1970年5月23日)。

4. 60山ラリー

60山ラリーは、終了までに時間を要することからすでにスタートしている。次頁に詳細。

東海支部創立60周年記念60山ラリー実施要領

1. 要点

- (1) 60山ラリーは、6種類のコースから何れかのラリーを目標に60山に挑戦して頂きます。
- (2) 東海支部在籍の支部員・支部友の皆さんの参加が可能です。
- (3) 他のコースと重複した山は、ポイントとして自動的にカウントされますので、コースの複数チャレンジが可能です。
- (4) 期間は、2019年1月～2021年3月末までの2年3か月間。従って2019年1月以降に登頂したラリー対象の山は、すべてポイントとなります。
- (5) 60山達成者には、表彰と共に副賞(登山用品)を授与します。又、複数のラリー達成者には特別表彰いたします。

2. 60山ラリーへの参加登録申し込み方法

7月支部報に同封した郵便局の振込用紙にコース名を記入して参加登録費用(¥3,000-)を振り込んでください。複数コースの申し込みでも登録費用は一緒です。振り込みを確認次第山名リストと報告ハガキを送ります。

3. 6種類の60山コース

- (1) 日本100高山・・・山と渓谷発刊の山の便利帳掲載の日本100高山より選定
- (2) 一等三角点の山・・・東海地区及び近隣県の一等三角点の山から選定
- (3) 愛知県の山・・・愛知県に点在(含県境)する山より選定
- (4) 岐阜県の山・・・岐阜県に点在(含県境)する山より選定
- (5) 三重県の山・・・三重県に点在(含県境)する山より選定
- (6) 静岡県のある山・・・静岡県に点在(含県境)する山より選定

4. 登頂(ポイント)の報告

- (1) 参加者にお渡しする山名表には、6種類のコース別リストの他全山リストが掲載してあります。
- (2) 報告は山名表を参照の上、10山毎同封のハガキに「ラリーコース名、山番号、登頂年月日、山名、同行者」を記入し、切手を貼って投函してください。記入方法は下記記入例を参照下さい。報告ハガキは、紛失したり書き損じた場合は、支部ルームに置いてありますのでご利用下さい。報告様式をハガキに写して頂いても結構です。
- (3) 登頂報告は自己申請です。
- (4) HPからの報告は現在システムを構築中です。使用可能になりましたら参加者にはお知らせしますので、ネット登録してください。ネット登録者にはシステム完成後パスワードをメールでお知らせいたします。
- (5) ラリーの進捗状況は毎支部報で逐次報告します。

5. 報告書記入例(10山をまとめて記入、複数コースチャレンジの場合は、コース毎)

60山ラリー登頂報告		年	月	日
ラリーコース名		会員No.	氏名	
山番号	登頂年月日	山名	同行者(パーティ名)	
301	H31年3月28日	鳩吹山	同好会	
23	R元年5月16日	道樹山	単独	

(文責・問い合わせ先 山田明美)

登山学校第Ⅲ期開校

登山学校運営委員会委員長 榊 將美

東海支部の自主運営による“登山学校”は3年をワンクールとして2017年7月にスタートした。第Ⅱ期期末として、修了式を6月8日(土)に執り行った。幸い1年間大きな事故もなく運営できたことは、指導員および事務局員の普段のご尽力の賜物であることは、言を俟たない。この場を借りて感謝を伝えたい。また第Ⅱ期修了者の計画による卒業山行が各クラスで実施された。

登山学校のテーマである『自立した登山者』へと一歩近づいた。月1回の現地講習、2ヶ月に1回の机上講習は、“考える”、“話し合う”、“理解する”「アクティブ・ラーニング」の成果と自負している。

昨年度は新規入校募集を行わなかったため、20名近い入校希望が東海支部・支部友会員として待機している。第Ⅲ期は受入れることとした。

第Ⅲ期の概要は次の通りである。

学期は7月を始業とする1ヶ年とする。同じく月1回の定例山行とほぼ2ヶ月に1回の机上学習を運営の柱とする。

初級教室は4クラスとし、1クラスに担任(リーダー)1名、副担任(サブリーダー)2名、受講生7名の編成で、指導員12名・受講生28名体制とする。

中級教室は5クラスとし、1クラスは担任1名、副担任1名に補助要員を5名、受講生は6から7名の編成で指導員15名、受講生35名体制とする。

上級教室は、1クラスとし、担任1名、副担任2名、補助要員を複数名配し、受講生は10名程度とする。

第Ⅲ期登山学校は指導員総数約35名、受講生数73名体制で第Ⅱ期と比較して各教室ともクラス数は変わらないが、指導員1名に対し、受講生数2名とさらに丁寧な指導を可能にした。

新たな受講生の受入れと、在籍受講生は入校年次から3年間を一括りとして卒業する規約になっている。このことから支部員(会員)への移行措置を図ることが求められたこと、さらに第Ⅱクール(2020年7月～2023年6月)に



第Ⅱ期修了書の授与

向けて、次世代リーダーの育成が急務であり、指導員の若返りと充実した体制づくりのため後継者を育成する仕組み作りが緊要となる。

そこで新たに「特待生制度」の導入を図ることを講じた。特待生制度を導入することにより、毎年継続して指導員候補者の充実・強化を図られることを意図したものである。

特待生候補者は自薦・他薦とし、指導員からの推薦を受けた後、書類審査と現地審査を受け承認される。去る5月12日(日)に愛知県三河地区の猿投山にて第Ⅰ期特待生審査を実施し、男性4名、女性1名の特待生が誕生した。平均年齢52歳であり今後の活躍を期待している。言うまでもなく、特待生には、第三期の受講料が免除される。

東海支部創立60周年に向けて各種記念事業が計画される中、多くの人員を抱える登山学校としては、受講生に積極的な参加を呼びかけていく。しかし、現状では支部山行や支部友山行に多くの受講生が参加することにより、すぐに満席になる傾向が見られる。このことについては、支部として受け皿山行の充実を図る必要がある。今後の東海支部の発展を担う重点事業として、支部を挙げて取り組み、より充実した登山学校を目指して進化させていく所存である。

第7回夏山フェスタ開催を振り返って

夏山フェスタ実行委員会事務局 毛利邦男

今年も6月8日(土)と9日(日)の2日間において名古屋駅前にあるウインクあいちの6階と7階で夏山フェスタが盛大に開催された。6階はセミナー会場と山小屋中心の展示会場とし、7階は主展示会場の配置となり、メーカー関係31社、旅行・観光自治関係の24・山小屋24に加えその他の出展も併せ出展小間数は103と今迄の最大数となった。来場者数は初日に5072名、2日目3716名、合わせて8788名となり昨年より約800名上回る来場者となった。

今回は、学生部を主体に東海ユース、ボランティア部、青年部の諸君がフェスタ運営業務の支援で頑張っていた。この場を借りて感謝の意を表したいと思う。



工藤夕貴氏

東海支部のブースでは「山のよろず相談コーナー」に加え、国民の祝日「山の日」をより多くの人に知ってもらうべく啓発のチラシの配布と10月26日開催予定の「森の音楽祭」のチラシも配布した。また、東海ユース及び支部友会では会員募集の活動を行い、新会員募集にも成果を上げることが出来た。そのほか登山学校運営委員会も若干受け入れ余地のある生徒募集にも注力した。



山本正嘉氏

8日のセミナー会場では、今年東海支部新年



盛況であったブース会場風景



花谷泰広氏

懇親会にてお話していただいた花谷泰広さんによる「ヒマラヤキャンプの挑戦～若手と目指す未踏峰～」と題した講演、山の日アンバサダーの工藤夕貴氏による「心を満たす山の旅」と題した講演に加え、山本正嘉氏による登山者に必要な体力とトレーニングに関するお話など7つのセミナーが開かれた。



廣瀬 学氏

9日のセミナー会場では、NHKのディレクター廣瀬学氏による「NHK山番組の世界」についての話、先般三浦雄一郎氏の南米アコンカグアに医師として同行した大城和恵氏による登頂断念の判断に至るまでのお話。寺田和人氏による「膝の故障と予防法」。山岳ライター羽根田浩氏による「山岳遭難事故を回避するため」の話に加え、モンベル会長辰野勇氏による「夢と冒険～今リーダーに求められる力～」と題した講演等8つのセミナーが開かれた。



大城和恵氏



辰野 勇氏

また7階の会場では8日、9日の両日合計10の登山用品の紹介やファッションなどのセミナーが開催され、終始熱心な聴衆で賑わった。来年は6月27日(土)と28日(日)の2日間開催されることが決定している。

観桜会

猿投の森づくりの会代表 和田豊司

暖冬だ、遅霜だと桜の開花予報に一喜一憂しながらも晴天に恵まれた観桜会、猿投山周辺のヤマザクラもちょうど見頃となる。里では満開、三叉付近では5分咲き、その上では3分咲きと少し遅めに設定した開催日がピッタリ当たった。ヤマザクラはソメイヨシノのような華やかさはないが、赤い新芽と白めの花びらが真っ青な空に生える。シロモジの花の黄色や新芽や若葉の緑に包まれた。



ゆうなの横笛

恒例になった演奏会には瀬戸の横笛演奏家“音の人・ゆうな”と“みずのお狩場太鼓”にお越しいただいた。優雅な横笛の響きと小鳥のさえずり、上山路川のせせらぎの音が絶妙なハーモニーとなって谷間にこだまする。力強いお狩場太鼓は冬

の間固く閉じていた木々の芽を早く目を覚ませと揺り起こさせる。



みずのお狩場太鼓



演奏を鑑賞する参加者



春の猿投の森で花見

冬の間、猿投の森づくりの会員が観察道沿いの除草を行い、枯死木を伐倒し、ヤマザクラやミツバツツジなどが生育しやすいよう常緑樹を除去した成果を訪れる多くの方(参加者78名)に見ていただくことができました。

猿投の森は3月ショウジョウバカマが咲き始めるころから4月のヤマザクラ、ミツバツツジをへてホオバの大きな花、シャラやミメシャラの咲く6月初旬までが気候も良く一番いい時期のようだ。

観桜会は三叉広場からヤマザクラの尾根コースと北歩道コースを4グループに分かれて観察指導員のガイドで、演奏を終えた子供たちや家族の方も含めて、猿投の森の春を堪能していただいた。三叉からヤマザクラの尾根に上る急斜面もこの日に先立って整備した階段や斜路のおかげで安全に上り下りしていた。



急斜面を登る参加者

観桜会後は好評で定番となった美味しい豚汁が待っており、三叉広場でにぎやかなお弁当タイムとなり最高の観桜会であった。2019年4月13日 実施

支部友会・朝明ミーティング開催

支部友委員会 金谷正起

支部友委員会の朝明ミーティングが平成31年4月20日(土)～21日(日)に開催された。

昨年台風で延期となりこの日に総勢90名が参加開催された。

1日目の20日(土)は講演と座学・実技の講習、2日目の21日(日)には分散登山のスケジュールで行われた。

1日目講演 10:30～ 場所：Aロッジ食堂
「リーダーシップとは」

講師：元日本山岳会会長 尾上 昇氏
(支部友委員長)



尾上委員長による講演

昼食(各自持参)をとる。

座学講習 13:00～ 場所：Aロッジ食堂

I 「高山病、低体温症の機序とその対策」

講師：三浦 裕先生(日本登山医学会認定国際山岳医)

II 「山での睡眠を考える」

講師：三原丈直先生(日本登山医学会認定国際山岳医)



三浦先生

三原先生

実技講習 14:30～ 場所：第一広場

I 「簡単なロープワークとセルフレスキュー」

講師：瀧根正幹(東海支部員、日本山岳ガイド協会公認ガイド)

受講対象：登山学校 中級教室、上級教室



瀧根ガイドによる実技講習

II 「簡単なロープワークとセルフレスキュー」

講師：高橋玲司(東海支部長、愛知学院大学山岳部OB)

受講対象：登山学校 初級教室、支部友



高橋支部長による実技講習

その後16:00から翌日の分散登山の説明と検討を各パーティ毎に行った。



翌日の分散登山について説明



分散登山の打ち合わせ

17:00からは豪華なBBQの夕食となった。90名の食材は奥山千佳さん松本陽子さん池戸美恵さんの三人によって運ばれた。メインはサーモンのチャンチャン焼き、豚肉、ステアリップ、鯖と鰯のアヒージョ、アボガドのマリネ等ホテルのレストランで食べるような豪華な料理だ。奥山さんから作り方レシピを各代表に説明し、高橋支部長の乾杯で始まり、又支部長差し入れの鹿と猪肉ジビエを味わった。



豪華なバーベキューを楽しむ

19:30からキャンプファイヤーが始まる。山の神(尾上委員長)が登場！新人の皆さんがたき火に点火してキャンプファイヤが始まりま

した。松本陽子さんの司会(磯部、田中さんの伴奏付き)で歌ったり、ゲームをして大いに盛り上がり21時に終了。



尾上委員長扮する山の神登場



キャンプファイヤーで歌う 磯部、田中さんの伴奏

2日目分散登山

第1パーティ ☆☆朝明キャンプ場7:20~602m地点林道分岐7:50~羽鳥峰峠8:30~猫岳9:50~釈迦ヶ岳10:25~ 釈迦ヶ岳猫岳分岐10:30~鳴滝コバ12:07~朝明キャンプ場13:10

参加者(8名): L.村瀬恭平 S L.奥野明美 大島巖 中島美枝 杉浦哲夫 林須美子 遠藤忍 伊与田玲子

第2パーティ ☆☆ 朝明茶屋 7:30 → 登山口 7:40 → 中道・鳴滝のコバ 9:08 → 松尾尾根合流点 10:29 → 釈迦ヶ岳最高点(昼食)10:48/11:16 → 猫岳 12:02 → ハト峰13:26 → 林道→下山 14:34 → 朝明茶屋 14:39
参加者(8名): L:金谷正起 SL:伊藤稔 星長むつみ 岩月邦文 加藤千保子 加藤智 SL:熊谷美喜子 記録:土田悦子

第3パーティ ☆朝明ヒュッテ (7:30) → 根の平峠 (9:05) → 青岳 (10:50) → 国見岳 (11:20昼食) → 青岳 (12:20) → 国見岳分岐 (12:40) → プナ清水 (12:50) → 朝明ヒュッテ (14:50)

参加者(8名): L:田中進 S L:松本陽子 井波美里子 生田晶子 吉田玲子 岩間洋子 加藤俊行 伊藤裕美

委員会報告

【亀の会】

米寿祝い山行

亀の会会員の小出育功さんの米寿（数え年）祝い山行で、松阪市の白米城址（楸形山 312.6 m）へ行ってきました。今回のお祝い山行の参加者は 26 名。マイクロバス満杯。久しぶりに参加された方々も見られ、楽しく、にぎやかな山行になりました。安藤仁一さんの提案で、米寿にあやかっての白米城址。下界では、今年初めての猛暑日だったようですが、木陰の登山道、気持ち良い山歩きができました。



白米城址にて

一昨年、大坪重遠さんの米寿祝い山行を静岡の樺立山 888.8m で実施して以来、2 人目になります。

11 年前の亀の会発足時、皆の目標は「80 歳まで山歩きがしたい」でした。しかし、皆さんそれを難なく次々とクリアされ、いままで、傘寿を越えて在籍した人 21 名（うち、その後の物故者 3 名、山歩きが出来なくなると退会された人 2 名）。只今現在、満 80 歳以上の在籍者 16 名。「傘寿まで」の目標は「米寿まで」に移ってきています。米寿祝い山行は、これから毎年になる見通し。更に、卒寿（数え 90 歳）祝い山行の話題も出てきています。

厚労省によれば、毎年健康寿命が伸びてきているが、その主な要因は、「高齢者の生活習慣の改善と社会参加の増加」とのこと。「亀の会の山行は、健康寿命を着実に伸ばせる場」と自負しています。

歩こう会の発足

亀の会では、本年から「歩こう会」を発足させました。「山は歩けないが、平地なら歩ける。歩きたい」という亀の会会員の希望に沿った催しです。「梅を観る」「桜を観る」「ヒトツバタゴを観る」など、季節の見どころをハイキングするものです。参加希望者は、当日集合場所に集合。参加申し込み不要。家族、友人、知人どなたでも参加できます。亀の会とのつながりは、歩ける限り持ち続けるものになりたいと思っています。

亀の会ソング

亀の会の愛唱歌を作りました。と言っても、植木等の「無責任男だまって俺について来い」の替え歌です。亀の会最高齢で昨年旅立たれた大坪重遠さんが愛唱されていた歌を替え歌にしたものです。

亀の会ソング

- ① 足の遅い奴は 亀の会に来い
みんな遅いぞ 心配すんな
見るよ青い空 白い雲
みんなで楽しく 登ろうよ
- ② 歩きたいやっあ 亀の会に来い
タイムなんて 心配すんな
緑の山々 冠雪の嶺
スカッと気分が 晴れるだろう
加藤守彦作詞
亀の会代表 加藤守彦

【自然保護委員会】

赤坂山山行

赤坂山から寒風の植物について

花の百名山（山と渓谷社）選定の赤坂山地質は花崗岩や堆積岩由来の変成岩帯等、低山帯から山地帯、気象条件は多雪地帯で尾根は風衝草原、また日本海岸側と太平洋岸側の分水嶺と変化の富んだ赤坂山、植物は厳しい条件で逞しく生きていました。

低山帯から、中腹にかけてアラカシやシロダモがコナラ等と混生、スギ等の植林。中腹からはブナやミズナラ等が出現、リョウブは各所に点在、稜線はブナ、イヌツゲ等が雪で幹曲がりした低木状になっていました。山頂では、レンゲツツジの蕾やバイカオウレン生育。

目立った植物は、満開薄紅色トキワイカリソウ、オオイワカガミ、点在して開花するカタクリ、イワウチワ（トクワカソウ）、オオバキス

ミレ、ニシキゴロモ、タムシバ、キンキマメザクラなどがありました。近傍には治山工事で植物が復旧した箇所もありました。

森田さんの安全運転で無事観察登山ができました。また季節を替えて登ってみたい山です。

自然保護委員 川合壽之

【ボランティア護委員会】



「山岳会といっしょに登山 2019」 高賀山にて

2019年春は、3つのボランティア登山を企画しました。

一つ目が、4月21日(日)に行われたSON愛知との「山岳会といっしょに登山 2019」で、美濃の高賀山に、アスリート9名、ファミリー8名、SON15名、東海支部13名の総勢45名で登山しました。天気にも恵まれ、事故も無く無事終了しました。山道にはカタクリをはじめ花もたくさん咲いており、満足度の高い山行でした。

【山行委員会】

■平成31年3月～令和元年5月の支部山行実施状況

	日程	山域	山名	参加人数	リーダー
3月	2日	九頭竜川源流域	御伊勢山	4人	伊藤
	3日	鈴鹿	御在所岳藤内沢	中止	山田
	27日	興津川上流	高トッキョウほか	7人	石井
	30日	京都トレイル	鞍馬山	15人	天野
4月	6日	瀬戸市東方	猿投山	7人	大矢
	14日	熊野古道	八鬼山越え	中止	林
	24日	高見山地支脈	修験業山ほか	中止	石井
	26日	鈴鹿北部	御池岳	7人	鈴木
	27日	松阪	伊勢山上	5人	石田
5月	8～9日	天城山脈	万三郎岳ほか	4人	石井
	10日	鈴鹿	御在所岳ほか	7人	鈴木
	11日	中央アルプス	木曾駒ヶ岳	4人	石田
	18日	乗鞍	乗鞍岳	19人	稲葉
	29日	富士五湖	王岳	7人	石井

※支部山行ホームページで参加者を募集していますので、ご覧ください。

二つ目は、5月11日(土)に行いました「春のブラインド登山」で、伊勢の白猪山に、視覚障がい者9名、東海支部12名、支援者10名の総勢31名で登山しました。

こちらにも天気に恵まれ、脱落者、事故も無く無事終了いたしました。今回から支援者として初参加の方が4名いらっしゃいました。これからも拡がりを期待しています。



「春のブラインド登山」 白猪山にて

三つ目ですが、6月6日(木)・7日(金)に、「タンポポ登山(身柄付き補導委託登山)」を予定して準備を進めていましたが、あいにくの雨模様で、家庭裁判所と協議の結果やむをえなく中止としました。この行事は秋にも行いますので、次回は晴天を願っております。

以上、3つ行事を中心にご報告いたしました。

ボランティア委員会委員長 前田隆久

山行委員会 鈴木慎吾委員長

東海支部俳壇

西山秀夫

追悼 四月二十一日 中世古直子氏死去

マナスルの天に召します鳥雲に

※中世古直子氏は女性初の8千m峰登頂者

四月二十七日～五月六日青森県の山旅

菜の花や鳥海山に向かへられ

水田に逆さ鳥海山映る

四月二十九日 白神岳

のどかさや船が沖行く日本海

残雪のブナ林の尾や白神岳

足元に群れてイチリンソウ咲けり

平成三十一年四月三十日

平成で最後や春の岩木山

令和元年朔日

菅江真澄も歩いた青森県最北の算用師峠道を行く

ひそと咲くシラネアオイや峠道

地味ながらエンレイソウも咲きにけり

太宰治の名作「津軽」の朗読を津軽弁で聞く

語り部の津軽言葉に春惜しむ

五月三日 下北半島の吹越鳥帽子から

残雪の八甲田山遠く見し

五月四日 広大無辺の八甲田山に登る

陸奥の果て雪残る八甲田山

☆☆ 「写真撮影勉強会」開催のお知らせ ☆☆☆

支部員、支部友会員はじめ東海支部関係者を対象に「写真撮影勉強会」を下記要領で開催します。ぜひご参加ください。

- 日時： 1回目 6月30日(日) 午後7時から9時 支部ルームで講義
2回目 7月19日(金) 午後7時から9時 支部ルームで講義
講義の内容は、1回目と2回目は異なります。
3回目 未定(10月ころ) 屋外の撮影スポットで実技指導
- 講師： 山之内博章氏 フォトクリエイター、(有)サンクチュアリ代表
(現役のプロのカメラマンです)

参照 URL: <http://www5d.biglobe.ne.jp/~sanc/index.html/index.htm>

参加費： 1回目、2回目は無料、3回目のみ交通費実費+経費

定員： 1回目、2回目は40名。3回目は20名。

申込・問い合わせ：メールで shasin@jactokai.net へ

または写真展実行委員まで

会員番号、氏名、参加希望日、カメラ経験、聞きたいこと等を記載して連絡してください。

申込期限： 1回目 6月15日、2回目 7月10日、3回目 後日告知

先着順で定員になりしだい募集締め切りとします。

勉強内容：これからカメラを買って写真を撮りたいような人も対象とします。

・撮影までの基礎知識

カメラの種類とその違いや選び方。レンズやその他の機材について

- ・写真を撮るにあたっての基本的な知識、
- ・いい写真を撮るための基礎知識
- ・よりいい写真を撮るための知識、技術
- ・写真撮影後の処理に関すること
- ・その他、質疑応答



2019/05/14 写真展実行委員会(担当) 井上



東海支部の蔵書からの一冊②〇

図書委員会委員長 石田文男

『新岳人講座』

今回は昭和55年～56年にかけて出た『新岳人講座』9巻を取上げた。

その「発刊にさいして」では、《山の総合誌『岳人』は昭和22年5月創刊以来55年10月号で400号を迎え、『新岳人講座』その記念事業の一つです。200～400号に掲載されて好評を博し、今日なお読者の求めの多い珠玉の紀行文、論文、画文、研究、記録などを収録・・・各巻は現代登山界の・・・権威ある監修者を得て多彩な編集に》と述べられていて興味深い。だが、40年を経た今、何を・・・と問われるかもしれないが、今回の紹介はここに惹かれてのことである。

まず、書名と副題・執筆者を見ていくとその巻の内容が想起されて、つい頁を繰っている。さらに各巻の概観を述べている「はじめに」にはつい惹きこまれて読んでいるのを忘れ、読み手自らの想いと想像が重なってきて際限がない。どの章においても、その執筆者の山への熱い想いと記録がつまっているのだから。

少し長いが代弁として引用したい。

《・・・登山者が本当の意味での「自然文学」を生み出したといえるだろう。そこにはあるがままの登山行為があり、山と人間の対話がながれている。初期の「山岳」を読む楽しさは、それを再認識することにつながるし、そこに学ぶべきことのいかに多いか・・・。

松方三郎は「登山入門」のなかで、次のように書いている。〈明治時代に山に入った先輩のものはいうまでもないが、それから大正の初めにかけて、いわば日本の登山の黎明期に、今日の言うところの日本アルプスなどに入った先輩達の書物は、50年を経た今日でも十分読むにたえる。そして勉強するならば、こうした先輩の書物のなかから勉強するのがよいのである。もちろん個々の山の姿をみればそれぞれ大変な変わりかたであろう。・・・こうした書物から山登りを、本源の姿において理解することが必要である。古い書物を読むことは懐古趣味でもなければ、復古主義で

もない。今日の山登りを、また自分自身の山登りをしっかりとした基盤の上におくために必要な事なのである。》(8巻『山と文学』の〈はじめに「山の文章について」〉から。

次に『山と文学』の「記録という言葉」(千坂正郎)から一つ引用。《偉大なる行為があっても、それが言語とか絵などによって、他者に伝達されない限り、その行為は偉大なる記録として残らないし、・・・承認されない。

ある山稜を登山家が単独で初登攀したとする。彼が黙して語らなければ初登攀したことは事実であっても、登山史の上にその事実は残らないし、またその初登攀によって得られた何かを他人に残すことがなかったら、彼の行為は歴史的にまったく無意味に終わってしまうのである。彼の登山行為を有意義なものとするためには、それを歴史の中に組込まなければならないし、それにはそれを他へ伝達できるようにすること。客体化、「記録」を大切にしなければならない。

登山家は自分の登山記録を大切にしなければならないが、同様に他の登山家の記録も尊重し、これを研究しそのなかから自分の糧となる何かをつかむ努力が必要である。記録はこのように人間形成の材料としてきわめて重要であり、「記録」自体が歴史を形成し、伝統をつくり、他者へ働きかけ、それを教育するのである。》

この二つの引用から何たるかをどう捉えるかは、是非この9巻に目を通すことであろう。

第1巻『アルピニズムⅠ』の巻末の「日本主要登山史年表」(山崎安治編)は圧巻である。651年からその事項がはじまり、1980年までで実に17頁にわたっている。ここを俯瞰し把握しておくのも無駄ではない。あわせて『日本登山史』(山崎安治著)、『近代日本登山史』(安川茂雄著)、『ヒマラヤの高峰』増補5巻(深田久弥著・白水社版)を読むのも意義がある。

書影と各巻の内容などについて、数多紹介したいところを次号に続きたい。

全9巻 東京新聞出版局

TOPICS 1

中世古直子さん逝去

女性登山家として一世を風靡した支部員の中世古直子さんが去る4月18日逝去された。中世古さんは、若き頃名古屋山岳会に入会、1958年に同山岳会のニュージーランド登山隊に参加。マウントクック日本人女性初登頂に成功する。1969年に日本山岳会に入会。1970年東海支部のマカルー学術登山隊に参加。1974年日本マナスル登山隊で世界初の女性8000m峰登頂を記録する。1988年には、東海支部の中老年インドヒマラヤ登山隊に参加。未踏峰のヤン峰(6230m)に登頂。

その後は、夫君(故 中世古隆司氏)と共に各種の支部活動に参画。支部では、常務委員、評議員、監事を歴任する。

葬儀は、故人が洗礼を受けていたことから4月19日に前夜式、翌4月20日葬儀式がキリスト教プロテスタントで執り行われた。享年82才。

尚、来る8月24日(土)に「偲ぶ会」が催される。今号支部報のインフォメーション欄に詳細記載。

TOPICS 2

新会長に古野 淳 氏を選出

今月の6月22日開催された日本山岳会の通常総会に於いて新会長(第26代)に古野 淳 氏が選出された。

古野氏は、1961年生まれの58歳で、日本大学山岳部出身。山歴は、カンチェンジュンガ(日本山岳会隊)、ヒマルチュリ(日本大学隊)で南稜を初登頂。エベレスト(日本大学隊)で北東稜を初登頂ほか豊富な経験を積んでいる。

日本山岳会では、理事、副会長、評議員を歴任している。又、古野氏は、東海支部員で第23代会長の尾上 昇 氏(2010年~2014年)の日本大学山岳部の後輩でもある。尾上会長のもとでは、若い会員の入会促進と育成を担当。現在多くの若い会員が活躍しているが、古野氏の功績に負うところが大きい。

現在の日本山岳会、多くの課題を抱えているが、それらに対応する若い古野会長の手腕に期待したい。

TOPICS 3

猿投山で熊目撃!!.....表紙の写真参照

今年の5月7日、支部員の石田伸郎さんが一人で猿投山に登っている途中で熊を目撃しました。午前11時頃猿投山の西尾根の猿投山トンネルの上辺りです。

歩いている前方10m位先を体長50cm位の熊が西尾根の斜面を東から西へ横切って行きました。石田さんは、直ちに警察と行政に通報しました。体長50cm位というと成獣ではなく、若い熊です。

表紙の写真は、その時のものではありません。自然保護委員会が猿投山の北面の三又広場の上部に設置した定点観測のカメラが捉えたものです。日時は、2018年5月21日の早朝です。

後日談ですが、その直後、支部員のMさんが一人で物見山から猿投山に向かったところ、物見山の先の山道に「この先熊目撃情報が寄せられています。この先は行かないようにして下さい」との警察の注意看板があったそうです。Mさん直ちに引き返えされました。

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画

(令和元年10月~12月分)

10月19日(土) ☆☆

山域：鈴鹿 山名：釈迦岳
リーダー：金谷正起 締切：9月29日

10月27日(日) ☆

山域：三河・尾張 山名：鷹ノ巣山・岩岳
リーダー：高松信治 締切：10月7日

11月9日(土) ☆☆

山域：奥美濃 山名：三尾山
リーダー：金谷正起 締切：10月20日

11月10日(日) ☆☆

山域：鈴鹿 山名：綿向山
リーダー：水野猛志 締切：10月20日

11月10日(日) ☆☆

山域：鈴鹿 山名：日本コバ
リーダー：高松信治 締切：10月20日

11月30日(土) ☆

山域：関ヶ原 山名：小谷山
リーダー：田中 進 締切：11月10日

12月1日(日) ☆

山域：尾張 山名：鳩吹山
リーダー：水野猛志 締切：11月11日

12月7日(土) ☆

山域：三河高原 山名：折平山
リーダー：金谷正起 締切：11月17日

12月8日(日) ☆☆

山域：鈴鹿 山名：竜ヶ岳
リーダー：今津英一朗 締切：11月18日

12月14日(土) ☆

山域：奥琵琶湖 山名：賤ヶ岳・山本山
リーダー：村瀬恭平 締切：11月15日

山行対象者 支部友会員及び支部会員

申込み方法 ・支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。

- ・締切日 原則山行日 20 日前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)
- ・支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。
- ・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

次回支部友ミーティング

開催内容のお知らせ

- 「予定」
- ① 第37回「朝明ミーティング・支部友会のメインイベント」
日時：10月5日(土)~6日(日)
内容：1日目 バーベキュー・キャンプファイヤー等の懇親会
2日目 分散登山
- ② 第38回「忘年会・新入会員歓迎会」
一年間を振り返り、山の思い出を語り親睦を深め合います。
日時：12月10日(火) 19:00~21:00
場所未定

支部友会員数

令和元年5月末現在 / 95名

リーダー連絡先

尾上 昇 FAX：052-832-3878
メール：onoe@onoe.co.jp

榊 将美 携帯：090-7237-4410
メール：m.sakaki@minds-consulting.jp

金谷正起 携帯：090-9931-3600
メール：kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp

村瀬恭平 携帯：090-4186-9876
メール：hoshizakari@ezweb.ne.jp

田中 進 携帯：090-9191-8666
メール：t-susumu@peace.ocn.ne.jp

今津英一朗 携帯 090-2616-7549
メール：imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp

磯部 隆 携帯：090-9180-7245
メール：takass@yk.commufa.jp

松本陽子 携帯：090-7859-4031
メール：yo-kom@nifty.com

高松信治 携帯：090-3156-5268
メール：takama2nobi3@yk.commufa.jp

水野猛志 携帯：090-5866-3781
メール：r34668@bma.biglobe.ne.jp

同好会コーナー

スケッチクラブ

村中征也

第3つのジャンボに出会った旅

5月16日(木)～17日(金)富山県の劔山麓へ。要望がやっと叶った馬場島ですが、それ以上に、驚き・感激・友情にドカンと打たれ、絵筆を取るのも忘れる程の、感動を得たスケッチ旅行となりました。

得難い旅は、写真展実行委員会前委員の杉浦吉治さんの援助なくては出来なかったこと…「3つのジャンボ」との出会いです。杉浦さん撮影の写真と共に紹介したいと思います。

① 劔の大王杉 5月16日

馬場島荘を出て、東に立山川沿いに暫く進むと川は二股に分かれる。左手の白萩川は、劔の大窓に突き上げる流れで、左岸の砂利道を40分程で右の尾根に分け入る。かすかな踏み後を辿り、ブッシュをかき分け、残雪を踏んで30分、天を衝く大杉に達した。

2003年5月3日に、佐伯郁夫さんが妻克美さんとスキーで歩行中に発見し、翌年1月1日の北日本新聞の第一面で発表されて、大反響を呼んだ。

この一帯は立山杉の古巨木が多いが、幹回り12m・樹高20mは群れを抜き、樹齢は数千年と推定される。早月尾根から少し離れ、人目に付かなかったことが生き延びた要因で、「劔の大王杉」と名付けられた。屋久島の「縄文杉」にも負けない雄姿は、9名が横一列に並んだ写真で想像頂けると思う。



「劔の大王杉」前に一列

② 中山登山 5月17日

馬場島荘を立山川に沿って西に少し下ると、案内板のある中山登山口。南に伸びた尾根は、ジグザグの急登を繰返し、3分の2程で南東に曲がる。漸く緩やかになるが、残雪とササで楽で

はない。

立山杉の巨木を何本も通り過ぎると、1,255mの小広いピークに達した。登山口から2時間30分、しんどい登りであったが、眼前に広がる劔連峰の大パノラマは、苦労を吹き飛ばしてくれた。ビュースポットはスケッチスポット、急いで画用紙に向かう。



中山頂上で劔連峰を一望

③ ジャンボおばあさん

劔来て石卓に並ぶ手料理は

大杉越えし母の味かな

馬場島荘の前は、家族で炊飯が出来る広場になっている。一隅に石で出来たテーブルがあり、9人分の料理が待っていた。「接待」の主は富山市の武隈あい子さんと、びっくりする我々を前に、笑顔で手作りの料理を振舞ってくれた。自作の野菜・食材で、劔の麓という環境と相まって、感激して味わった。

彼女は、杉浦さんとは長い交流。大企業に勤めた後苦労を重ね、「人への奉仕と人の嫌がる作業」を自分の喜びとして生きて来られた。四国への旅行時の「遍路へのお接待」の体験も一



石卓を囲む中央が武隈さん

因か。料理も独特で奥深いが、彼女の話は、感動と教訓に満ちていた。

彼女への礼状に、冒頭の拙歌を入れて、皆の気持ちを込めて伝えたら喜んで下さった。

長く登山と絵をやっていると、こんな得難い体験に出くわすこともあり、「ジャンボ3話」と題して紹介した次第です。

「ジャンボ」ですが、「ジャンボ宝くじ」「ボーイング747」以来日本では、「特大」をイメージして使われますが、アフリカのスワヒリ語から来た言葉で、「こんにちは Hello」の意味です。

NHKのTV番組で知りましたが、今回の話はどうもビッグですが、出会いに心が籠っており、「ジャンボ&こんにちは」ではないかと、使わせて頂きました。5回作品展を、2月15日(金)～20日(水)に名古屋市東区の「市政資料館」で開催しました。

15名31点の作品は、会員がチャレンジした1年間の成果で、支部員の皆さんや多くの方に観て頂き、厚くお礼を申し上げます。

古道塩の道同好会

山中光子

名古屋市内塩付街道の最終となる地を巡る。名古屋市南区の笠寺観音や富部神社、松本道標等を巡りタイムスリップしたような「あゆちがた」が残る地からの出発。町の中は住宅地や商業地への目まぐるしい発展のため、古いポイント等を見つける事に苦勞する。

「あゆちがた」から、ポイントである左右田橋を渡る。たまたま工事中で、橋の欄干の装飾は隠れていた。周りはマンションが建ち並び、橋を渡れば広大な瑞穂公園になる。公園を抜けて住宅街の中の道を進む。背の高い鳥居が見え村上神社の案内が出る。この辺りは古墳が多く、その上に神社が建っている所が多い。



道路にはプレート

細い塩付街道を進むと、汐路桜ロードに出る。そこには痩せた二本の松が立ちその横を進む。すると大きな名古屋市立大学病院の建物



みやみち観音 後方は名古屋市民病院

が現れる。病院の東側の道が旧道で、道路には塩付街道のプレートが張り付けられ、塩付街道保存会の小さな案内板まで出ている。その後いまだに寒さ対策された三体のお地蔵さんが並び、その先には立派なお堂で保護された「みやみち観音」が並ぶ。ここは熱田神宮参詣への道と記してある。享栄高校の少し手前には、頑丈なコンクリートで固められ、赤い柵で囲まれた馬頭観音像があるが注意しないと見過ごしてしまう。

その先には白山社と善昌寺、神社とお寺が並んでいる。昔、白山社は善昌寺の境内にあったが、明治維新の神仏分離令により別れた。そこからの道はしばらく旧道らしい趣きのある道が続く。その先には、近所の方のお話によると車の出入りが多い大きなマンションの傍らに最近お堂が建てられ、そこへ移動されたという背の高いスマートなお地蔵さんが鎮座する。斜めになった細い旧道の先は、地下鉄が下を通る幹線道路を渡り、今の細い道の延長を歩く。静かな住宅街を進むと、今は民家の庭先になっているが昔街道の目印だったウバメガシが立つ。ここは旅人の休憩地でもあった。

その先の旧道らしい細い道を進むと、飯田街道に突き当たる手前、今は駐車場になっているがそこは昔、馬の蹉跌屋だった。飯田街道に突き当たるが、村の鍛冶屋跡を見るために先へと進む。鍛冶屋跡は全く影も形もなくなっていたが、大きな鍛冶屋だったとの事。部分的ながら塩付街道を歩いた。

探索後駐車場まで戻る心配がなく、名古屋市内を歩く事は、公共交通機関を使えるし、車を出してくれる方の負担も無くなる。素晴らしい山の景色を見たり、その土地の美味しい物を食べたり等の楽しみは無いが、自分達の住む地元の塩等を運んだ何本もある古道を地味ではあるが堅実に歩いて行きたい。

会 務 報 告

【2019年2月常務委員会】

日時：2月27日(水) 19時00分～21時00分

- ①会計(市川)：会計決算のため、来月の常務委員会に各委員会の収支報告をして戴きたい。
- ②支部友委員会(金谷)：1月・2月の山行は全て終了。会員数は2名の新規入会があり現在116名になった。
- ③小秀山アイスクライミング事故報告(吉川)：報告書に沿って事故報告。
- ④山行委員会(鈴木)：HPでの山行案内時には既に満席になってしまうことを防ぐため、案内から申し込み開始まで一定期間を置くよう変更をした旨報告。
- ⑤猿投の森づくりの会(小川)：2月の事業報告と3月の活動予定を報告。また東海自然歩道管理者から枯死木の伐採協力について依頼があった。
- ⑥亀の会(加藤)：登山することが難しくなった人の為、亀の会番外編として「歩こう会」の試行を2月26日佐布里梅林で12名の参加を得て実施した。
- ⑦登山学校運営委員会(榊)：2月山行の藤原岳下山中の事故について報告と、特待生制度新設の提案：指導員体制の若返りと強化を目的として学校卒業予定者の中から支部員加入を勧め、登山学校受講料の免除をし、リーダー候補を増やしていきたい旨提案。→常務委員会でこれを承認。
- ⑧東学連(高橋)：雪山プロジェクトの進行状況報告。3月下旬の合宿で終了予定。
- ⑨東海ユース(服田)：2月16・17日第8回登山教室指導者養成講座に2名が参加、2月23日講習会「低体温症と凍傷」に3名が参加。
- ⑩支部報委員会(星)：次回157号の締め切りは2月末日。3月4日に編集委員会を始める。
- ⑪自然保護委員会(井藤)：東海支部ヤマザクラフィールドでのキャンプについてモニタリング1000に呼応して若い人の参加を増やしたいのでナイトウォーク等の企画をする。
- ⑫遭難対策委員会(山田)：1月は86件の登山届があった。チェック表は55件出された。“リスクグレード3”はなかった。東海支部山岳救助隊活動既定などの見直しする。
- ⑬ボランティア委員会(前田)：少年委託登山は6月6・7日に実施予定。岐阜と三重の家庭裁判所からも1名づつ参加して愛知の家庭裁判

所と合わせて4名で調整中。支部の視覚障害者登山は倶留尊山で2月16日に14名で実施。

- ⑭写真展実行委員会(山内)：撮影山行は支部報4月号に掲載を予定。メルマガ配信も行う。今井通子氏に次回写真展に特別出品を依頼、快諾を得た旨報告。
 - ⑮デジタルメディア委員会(井上)：登山届の保存期間について、1年を目安として検討する。委員会ブログの更新していない物については削除したい旨の報告-異存なし。
 - ⑯技術向上委員会(片岡)：2月23日登山に於ける「低体温症と凍傷」について金田正樹さんによる講習会を実施した。3月に村越先生による2日間の講演・実技を予定している。
 - ⑰総務委員会(毛利)：事業報告の中に各委員会の活動記録と、実施した山行内容の数字を反映したい。また、総会などで説明する委員会の紹介文も3月中に、総務まで提出のこと。
 - ⑱最後に(高橋)：チャレンジ基金について先月紹介のあった山田氏が谷氏とカナダで登攀活動をしている。東海支部60周年に向けての企画と共に、支部としてチャレンジ基金の対象としたい。→常務委員会で承認した。
出席：高橋、尾上、毛利、榊、井藤、山田、小川、片岡、箕浦、加藤、金谷、鈴木、前田、市川、井上、服田、鎌倉、吉川、星、山内、中子
- ## 【2019年3月常務委員会】
- 日時：3月27日(水) 19時00分～20時30分
- ① 総務(毛利)：夏山フェスタのチラシができてきた。ルーム利用カレンダー5月～7月について変更等あれば連絡いただきたい。委員会・同好会紹介について未提出の委員会は速やかに提出いただきたい。
 - ② 部友委員会(金谷)：2月～3月の山行及び2月～6月の支部友ミーティングについて報告。4月の朝明ミーティングは開催予定。
 - ③山行委員会(鈴木)：2月以降の山行について報告。3/15 リーダー会議を実施。来年度のリーダーは1名辞めたが新たに1名追加で同数。
 - ④会計(市川) 3年間会費未納者3名について退会とする。また本部会費未納3名、支部友会費未納者5名についても同様。今年度の各委員会の収支報告まだの方は速やかにお願する。
 - ⑤猿投の森づくり委員会(小川)：3月～4月の活動について報告。4/13の観桜会は是非皆さんご参加いただきたい。

⑥東海ユース(服田)：3月の運営委員会には支部長、青年部委員長も参加し、青年部との連携について模索を始めたところ。

⑦支部創立60周年記念事業実行委員会(尾上)：60山ラリーについては60山を登るのに期間を要することから先行して実施。4月の支部報に配布のチラシを入れる予定。

⑧青年部(鎌倉)：今後ユースとの交流を予定。青年部の名称について案を持ち寄り、今後検討予定。

⑨岳連(鎌倉)：19日に理事会があった。名称について「愛知県山岳・スポーツクライミング連盟」とし、法人格化の予定。

⑩学連(喜田)：冬山プロジェクトは現在、指導者が就職活動の都合もあり、新人のみで活動。5月に例年通り総会を予定。ゴザフェスについては8/31～9/1で、昨年より早く告知予定。

⑪登山学校運営委員会(榊)：第Ⅲ期については初級・中級各10名程度、上級若干名新規募集予定。先月の委員会で承認いただいた特待生について5名書類選考承認。5/12に実地選考を行い、7月以降、補助員として山行へ参加予定。

⑫自然保護委員会(井藤)：4月以降の活動で、ヤマザクラフィールドでモニタリング1000を盛り上げていくためのキャンプを行う件は実効性について更なる検討の為、まずは自然保護委員と猿投の森づくりの会員で行う。

⑬遭難対策委員会(山田)：登山届の提出状況は配布資料のとおり。遭難対策規程、遭難対策運営要領について配布のとおり案を作成した。来月の委員会までに内容の検討を。2019支部ガイドに掲載し、7月頃より正式スタート予定。リスクチェック表等についてHPよりダウンロードできるようにしては。→了承。

⑭ボランティア委員会(前田)：2018年度の活動報告及び来年度の事業について配布資料のとおり。次年度の体制について若返りを図る。

⑮写真展実行委員会(葛谷氏代理)：来年3月の写真展会場について先日申し込みをした。

⑯技術向上委員会(片岡)：先日3/16～17に予定通り読図講習会を行った。

⑰その他(高橋)：この度、谷氏も支部員となることとなった。60周年記念事業でも二人には活躍いただく予定であり、チャレンジ基金は2名分として申請したい。→了承。

出席：高橋、佐野、片岡、山田、尾上、市川、鈴木、服田、前田、箕浦、星、小川、毛利、石田、金谷、榊、井藤、鎌倉、山内、喜田、葛谷

【2019年4月常務委員会】

日時：4月24日(水)19時00分～20時40分

1. 支部長挨拶(高橋)：東海支部評議員の中世古直子さんが逝去され、4月20日通夜式、21日に告別式が行われた。中世古直子さんは女性として世界初のマナスル8000m登頂に成功しており、今後東海支部として偲ぶ会開催を考えていきたい。

2. 委員会報告

①会計(市川)：H30年度決算報告並びにH31年度予算案が提示された。H30年度は単年度としては赤字決算となっているので、総会にてその原因について説明しておいてほしい旨要請有。60周年記念事業の費用は事業積立金から拠出することとし、2020年度予算に反映させる。

②支部友委員会(金谷)：3月、4月の山行報告は無事終了し問題はなかった。朝明ミーティングの参加は90名あり盛況だった。その他、新入会員の山岳保険についてハイキング保険のまま冬山登山に参加していたケースがあった為、そのような会員には登山保険への変更をしていただいた。

③山行委員会(鈴木)：リーダー育成の講習会は「読図とナビゲーション」について84名の参加で行われ、実地研修はコンパスの使い方について学んだ。リーダー会議では現在女性リーダーがいらないため、女性リーダーの養成に力を入れたい。

④猿投の森づくり委員会(小川)：4月6日「長久手第11回まちセンまつり」、4月13日「観桜会」、4月20日「第97回自然観察会」の報告と、残る4月の予定事業の報告がされた。

⑤亀の会(加藤)：4月に新入会員2名あった。3月の退会会員は2名、4月に中世古直子さん逝去の為、4月で1名の減となった。

⑥東海ユース(服田)：6月12日19時から東海支部ルームでロープワークの講習を行う。

⑦支部報編集委員会(尾上)：支部報158号は7月1日発行の為、原稿の締め切りは5月末日までとする。注目点は大口氏の中世古直子さんへの追悼文と、支部60周年記念事業の掲載、またトピックスとして支部内外の記事掲載を行う新企画導入する。

⑧登山学校委員会(榊)：山行報告は提出資料の通り。朝明ミーティングへの参加は登山学校からは62名あった。提案事項として特待生山行計画として5月12日に猿投山でオリエンテーリング方式により特待生5名の審査を行う。

⑨自然保護委員会(井藤):赤坂山自然観察山行など報告は議事録にある通り。問題点として、現在ヤマザクラフィールドでのキャンプに向けて準備をしているが、そのエリアに熊が生息しているとの情報があり、キャンプ準備と合わせて更に熊の情報を集めている旨の報告がされた。

⑩海外登山(高橋):インドヒマラヤの報告書が出来たので10部程作成し何冊か東海支部に寄贈する。

⑪ボランティア委員会(加藤):4月21日の高賀山支援登山はSONがマイクロバスを2台用意して実施した。5月11日実施予定の白猪山ブラインド登山は男性参加者に対して支援者は女性が多くサポート体制に問題が残っている旨報告があった。

⑫東海学生連盟(喜田):4月30日~5月1日(2泊3日)に岳沢を中心にして奥明神山から西穂高岳を実施予定で参加者は12名の予定。

⑬遭難対策委員会(毛利):遭難対策規定及び運用要領は支部ガイド2019版に記載する。

⑭写真展実行委員会(山内):撮影山行は4月御在所・5月西穂高岳・6月涸沢は人員、要望共に決定した。7月の梅池、蝶が岳は調整中。8月計画は無く9月以降は未定。その他東海岳人写真展は2020年3月17日から22日まで栄市民ギャラリー8階で開催決定した。

⑮デジタルメディア委員会(井上):ネットの山行申し込みの欄に緊急連絡先の追加と山行計画に申込開始日の追加する。

⑯総務(毛利):夏山フェスタを6月8・9日と開催する。今回もボランティアのお願いを25名程したい。

出席:尾上、高橋、佐野、毛利、小川、市川、服田、金谷、鈴木、井藤、榊、山内、箕浦、加藤、石田、井上、喜田

【2019年5月常務委員会】

日時:5月22日(水)19時00分~20時10分

①部友委員会(金谷):4月~6月の支部友ミーティングについて報告。4月の朝明ミーティングは好評だった。

②山行委員会(鈴木氏欠席代理で稲葉氏):4月月以降の山行について報告。山行参加者の緊急連絡先についてHP対応予定。保険についても入力できるよう改修依頼中。

②の会(加藤氏欠席のため配布資料参照)

④猿投の森づくり委員会(和田):6/8総会開催。令和元年度活動計画及び予算等審議事項につ

いて配布された資料に基づき説明。常務委員会の承認をいただきたい。→異議なし。

⑤東海ユース(服田):6/12ルームにてロープワーク勉強会を開催予定。夏山フェスタでは今年も新入会員を募集予定。

⑥支部報編集委員会(星):158号の記事について配布資料のとおり。原稿は5/末に〆切。

⑦青年部(鎌倉):7月の連休はクライミング合宿予定。青年部の名称について現在アンケートで意見を募っているところ。6月の定例会にて方向性を決める予定。

⑧登山学校運営委員会(榊):6/8に第Ⅱ期修了式。今年は入学式と分けて実施する。5/12特待生候補者5名の実地選考は無事終了。

⑨自然保護委員会(井藤):猿投の森動物調査について1回目終了。ヤマザクラフィールドでのキャンプは熊の目撃情報もあるが、学生も参加のため実施する。

⑩ボランティア委員会(前田):視覚障害のある方が現在4名支部におり、今後も障がいのある方へ門戸を開いていくが、入会費や会費がネック。障がい者への割引制度について要望したい。→方向としては賛成。正副支部長会議にて検討したい。本部ではすぐに制度化するのは難しいと思われるが提案し進めていきたい。

⑪遭難対策委員会(山田):支部遭難対策規程及び運用要領は東海ガイド2019に掲載。

⑫森の音楽祭実行委員会(毛利):実施内容が決まり、チラシを作成中。夏山フェスタで配布予定。後援団体が今年から増える予定。

⑬技術向上委員会(片岡):朝明ミーティングへ講師を2名派遣。熱中症等について講義していただいたが好評だった。5/28本部講習会の伝達講習を実施予定。6/15登山学校と共催で救命講習を実施予定。

⑭会計(市川):今年度の各委員会予算配布。年度末には会計報告をお願いする。

⑮インドヒマラヤ(星):13次隊の報告書ができあがった。希望者は連絡いただきたい。

⑯60周年記念事業委員会(山田):60山ラリーについてメンバー11名で進めているがもう少し委員が欲しいところ。6種類の60山を選定し、案内を7月支部報に同送予定。申し込みについてデジタルメディア委員会と相談中。

出席:高橋、佐野、片岡、山田、市川、服田、前田、星、和田、小川、毛利、石田、金谷、榊、井藤、鎌倉、稲葉、喜田

総務委員会 毛利邦男 記

午前7時30分から受付、受付終了8時30分
集合場所シャトルバスで猿投の森入口まで先
着順に送迎。森の入り口から会場までは徒歩4
0分程。

参加費：500円

申込方法：往復官製ハガキまたはe-mailにて、
氏名、電話番号、Fax番号を記入、第2部にも参
加希望の方は、ご希望のプログラム名（自然観
察会orハイキング）記入の上ご応募下さい。

申し込み先

ハガキ：東海支部 森の音楽祭実行委員会

メール：sanagenomori@gmail.com

内 容：

第1部：演奏会（10時15分～11時50分）

- ・トヨタ自動車合唱部による演奏
- ・東海学園交響楽団によるオーケストラ演奏
ベートーベン交響曲第5番「運命」
と参加者全員による「雪山讃歌」の合唱

第2部：森の体験（12:30～15:30）

- ・森のお話と自然観察会
- ・猿投山山頂を目指したハイキングと沢歩き体
験

注：参加者には、猿投温泉の無料平日入泉券の
配布予定しています。詳細は支部報に同梱した
チラシをご覧ください。

森の音楽祭-支援スタッフ募集中！！

森の音楽祭実行委員会では、森の音楽祭の事
前準備作業を9月10（火）、9月28日（土）に予
定しています（午前9時30分～午後2時30分頃を
予定）。事前準備作業に参加していただける
方ならびに音楽祭当日のお手伝いをして頂け
る方（支部員、支部友会員（登山学校含む）、
青年部、東海ユース）を募っています。ご協力
していただける方は、森の音楽祭実行委員会
毛利邦男までご連絡下さい。

メールアドレス：kunio-mohri@asahinet.jp

携帯電話：090-2771-7280

森の音楽祭際実行委員会 毛利邦男

【写真展実行委員会からのお知らせ】

下記のような写真撮影山行を企画していま
す。是非ご参加ください。

① 梅池～白馬

・月日：7月13日（土）～15日（月）2泊3日

・世話人：蟹井れい子

② 蝶ヶ岳

・月日：7月19日（金）～21日（日）2泊3日
蝶ヶ岳ヒュッテ泊ほか 世話人 山内薫-

*東海支部のHPに詳細が掲載してあります。メ
ニューで「写真展実行委員会」をクリックして
ください、

*月日や行程、移動方法は参加希望者との相談
で変更する可能性があります。

*参加希望、問い合わせは、

山内(090-1723-2847, yamauchi@orihime, nejp)
または、写真展実行委員までご連絡ください。

第17回東海岳人写真展のご案内

2020山と自然のパフォーマンス

開催期間：2020年3月17日（木）～22日（日）

9時30分～18時（最終日は17時まで）

会場：名古屋市民ギャラリー栄

名古屋市中区栄4-1-8（中区役所朝日
生命共同ビル8階 第9・第10展示室）

☎052-265-0461 地下鉄栄駅12番出口

特別出品 登山家 今井通子女史（医学博士）

写真展実行委員会 山内 薫

故・中世古直子さんを偲ぶ会のお知らせ

女性登山家として国内外の山々に輝かしい
足跡を残された中世古直子女史を偲ぶ会を下
記の通り行います。多くの会員諸氏の参加を
希望します。

日 時：8月24日（土） 午後4時～7時

場 所：今池ガスビル

千種区今池1-8-8（地下鉄今池駅10番出口）

申込み：松本陽子

E-mail:yo-kom@nifty.com

発起人代表 支部長 高橋玲司

編集後記

60周年事業が60山ラリーを皮切りにいよいよ
始まった。各委員会、支部報、ブログなど今
後詳細が出てくるので期待したい。

通年事業の夏山フェスタは、入場者数が今年
も増加したとのこと。支部の活動範囲はまだ
拡大傾向にある。支部報では、新企画として
トピックスのページを設けた。支部の活動を更
に掘り下げ、紙面に取り上げて行きたい。

星 一男

海外トレッキングのパイオニア!



世界の山旅を手がけて48年

“山仲間オリジナルツアーを企画しませんか?”
説明会にお伺いします。お気軽にご相談下さい

名古屋 052-581-3211
〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-2 (第3千禧ビル3階) www.alpine-tour.com



ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。
観光庁長官登録旅行業第1167号 / (社) 日本旅行業協会正会員

株式会社アトラストレック

【東京本社】〒160-0004 東京都新宿区四谷2-10-5 ハツ橋ビル301
TEL:03-3341-0030 FAX:03-3341-9200 E-Mail: info@atlastrek.co.jp
【大阪支店】〒530-0012 大阪市北区芝田2-8-7 八木ビル4階
TEL:06-6147-8031 FAX:06-6147-8032
ホームページ <http://www.atlastrek.co.jp/>

SINCE 1975
mont-bell

ウェア・ギアに
遊び心もそろえて
お待ちしております



アウトドア用品は、
機能的なアイテムが豊富に
そろうモンベルストアへ。

- **豊橋店** 愛知県豊橋市飯村町西山7-645
- **名古屋店** 愛知県名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークロフト 6階
- **ららぽーと名古屋みなとアクルス店** 愛知県名古屋港区港明2-3-2
ららぽーと名古屋みなとアクルス 1階
- **新静岡店** 静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1 新静岡セノバ 4階
- **ららぽーと磐田店** 静岡県磐田市高見丘1200 ららぽーと磐田 1階
- **浜松店** 静岡県浜松市東区西町985-1 浜松プラザウエスト内
- **長久手店** 愛知県長久手市片平1丁目901
- **各務原店** 岐阜県各務原市那加加場町3-8 イオンモール各務原 2階
- **長島店** 三重県桑名市長島町浦安368
三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階
- **鈴鹿店** 三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2 イオンモール鈴鹿 1階
- **モンベルルーム御在所店** 三重県三重郡菟野町大字菟野8625
(御在所口ロープウェイ前)

豊橋店・名古屋店・長久手店・長島店では、アウトレット商品も取り扱っています。

【お問い合わせ】 0088-22-0031 / TEL.06-6536-5740
モンベル・カスタマー・サービス ※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒461-0044 名古屋市東区矢田東1番22号
TEL (052) 719-0677 FAX (052) 719-0678
E-mail : info@asai-rbs.co.jp

◆◆◆◆◆ OMC ◆◆◆◆◆

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号

◆◆◆◆◆

法務相談は行政書士にお任せください!

相続 会計 許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます

遺言書、遺産分割協議書、
法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506

名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004
www.nygs-office.com

久屋大通駅
徒歩1分



(株)ワークシステムサービス

一般社団法人 日本自動車運行管理協会
一般社団法人 中部地区自動車管理業協会

- ・一般貸切旅客事業
- ・車両運行管理事業
- ・愛知県知事登録旅行業
- ・労働者派遣業
- ・ビル清掃管理事業
- ・介護支援事業

〒465-0021 名古屋市名東区猪子石3丁目113番地
TEL 052 (779) 8777(代) FAX 052 (779) 0031
<http://www.work-system.co.jp/>